

けんぱくものしりシート

じょうもんじん せい かつ

縄文人の生活



ねえねえ。縄文人が暮らしていた場所が世界遺産(※)になったんだよね。



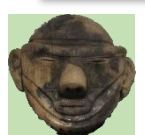
そうそう。縄文時代の生活は、どんなだったのかな？



ケンくん、ハクちゃん。縄文時代の中で思い浮かぶ物はあるかしら？



縄文土器でしょ、竪穴住居。あとは貝塚と土偶。(☆)



さすがですね。そのほかに弓や石斧、丸木舟もあったようです。大昔なので原始的な生活を想像してしまいがちですが、そんなことはなさそうです。道具を作る技術は高く、土器などのデザインもすばらしいですね。どんな暮らしをしていたのか見てみましょう。



縄文時代はいつごろから始まったのかな？

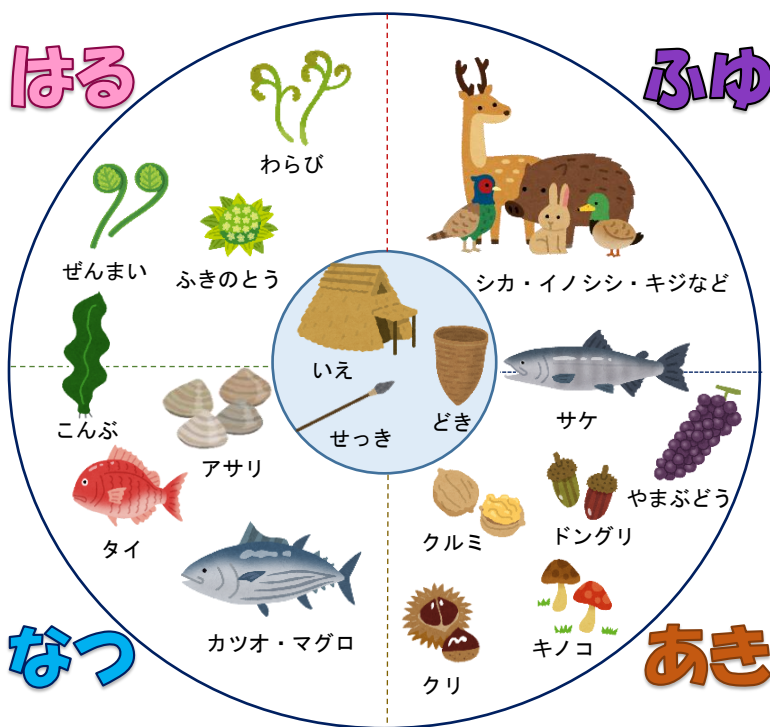


約1万2千年前に氷河期が終わり暖かくなってきたころからです。

旧石器時代	縄文時代						弥生時代
	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	
12,000	8,000	6,000	5,000	4,000	3,000	2,300	ねんまえ 年前

それまで大型動物を追いかけて狩りをしながら移動する生活をしてきた人たちが、竪穴住居を建てて同じ所で生活するようになりました。土器の発明が大きなきっかけの1つです。土器で煮たきをすることで、それまで生では食べられなかったドングリなどの植物が食べられるようになり、とってきた食材を土器で保存することで食生活が安定したのです。「狩り・漁・採集」によって暮らしていた縄文時代は、約1万年も続いた争いの少ない時代だったようです。

じょうもんじん ねん
【縄文人の1年】



じょうもんじん きせつ て はい
縄文人は季節ごとに手に入
る物を知っていました。
はる め で さんさい あつ
春には芽が出た山菜を集め、
なつ さかな かい かいそう
夏は魚、貝、海藻をとります。
あき もり き み ひろ
秋は森で木の実を拾い、
ふゆ やま どうぶつ か
冬には山で動物の狩りです。
か だいいじ なかま いぬ
狩りには大事な仲間である犬も
連れて行きました。
めぐ しぜん
恵みをあたえてくれる自然を
たいせつ まも まいとしいしゅう
大切に守り、毎年採集できるよ
うに、その時期に必要な分だけ
をとっていたのでしょ。また
くり きなどを植えて手入れを
あんてい しょくりょう かくほ けい
し、安定した食料の確保も計
かく かんが
画していたと考えられます。

じょうもんじん にち
【縄文人の1日】

あき ひ で お ちようしょく だんせい か
朝は日の出とともに起きて朝食をとると、男性は狩
りや漁へ、女性や子どもは植物採集などに出かけまし
た。1日中外へ出かけていたわけではなく、残りの時間
は、土器・石器などの道具作りや、とってきた
食材で保存食を作ったりしていました。
ひ く いたら いえ なか ひ かこ いっか じかん
日が暮れたら家の中で火を囲んで一家だんらの時間も
あったことでしょう。そして、身体を休めるように
ねむ ねむ
眠りについたと思われま。

さて、今日はここまで
です。(☆)印は「もの
のしりシート」のバッ
クナンバーでくわしく
見ることができます。

まずは「ものし
りシート」を見て
みようかな。

ほっかいどう きたとうほく じょうもん いせきぐん れいわ ねん がつ にちとうろく
(※)「北海道・北東北の縄文遺跡群」2021(令和3)年7月27日登録

さんこうぶんけん (1) いわて けんりつはくぶつかん ねん 『じょうもん ほんしん』 / (2) ゆうき りん ほか ねん 『いま 蘇る 縄文』 / 他

- 「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。
- 「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。



岩手県立博物館
〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214

岩手県立博物館 検索

HPにてバックナンバー公開中!

けんぱくものしりシート
『縄文人の生活』

2023年8月発行 考古—No.27

■参考文献

- ・岩手県立博物館 1993年 『じょうもん発信』
- ・発行人 結城 凜 2018年 『いま蘇る縄文』
編集人 山本一馬
株式会社ダイアプレス